

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年7月18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891200016		
法人名	有限会社 凜成		
事業所名	グループホーム 花あかりの家	ユニット名	1階
所在地	〒313-0106 茨城県常陸太田市下利員町1262-1		
自己評価作成日	平成25年3月7日	評価結果 市町村受理日	平成25年7月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=089120016-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年4月24日	評価確定日	平成25年7月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>自然に恵まれたのどかな環境の中で四季ごとの行事を一緒に楽しみ、暖かくなれば郊外で日光浴をしながらお茶をいただき、草取りや野菜作り（収穫）のお手伝いをして頂きます。 個々の入居者様の生活レベルに合わせた介護を実践し、日々入居者様の声が聞かれ笑い声や笑顔の絶えない日常の生活を目指しています。 それに伴いスタッフのメンタルケア（ストレスを溜めない状態）を行い介護・認知症についての知識・技術の向上を図るために研修や勉強会に参加して貰います。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は山や田園に囲まれた自然豊かな場所に立地しており、四季の移り変わりを楽しみながら心穏やかに暮らせる環境となっている。 地域の運動会や祭りに利用者が参加できるよう支援しているほか、事業所主催の納涼会に近隣住民を招待し、利用者が地域の一員として交流ができるよう取り組んでいる。 近隣住民からは花や野菜のお裾分けを頂いている。 認知症サポーターである施設長が、市主催の住民を対象とした認知症に関する勉強会で講師を務めている。 職員は利用者の笑顔が絶えない生活を支援するために、各自月間や年間のスローガンを掲げ、資格取得や介護技術の向上に努めている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サービスの資質を高め、それが地域に貢献していくことになるという意味がこめられている。朝礼の際に、「資質の向上に努め地域に貢献します。という理念を復唱している。人材育成のため、月間目標を掲げ、スタッフ間の意識の統一を図っている。また、年間目標を掲げる予定。	「私達は、ご利用様を尊厳、敬愛し、お1人お1人に合った健やかで穏やかな生活を実現するため、寄り添い、努力を惜しまず資質の向上に努め、地域に貢献します」を理念とし、事業所内に掲示するとともに、職員は朝礼時に唱和して共有を図り、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年の納涼祭は屋外で開催しボランティアの方やスタッフのご家族の方に踊りや歌を披露していただいた。また、地域の運動会やお祭りにも参加している。四季折々の花や野菜を近所の方が届けて下さっている。	利用者と職員は地区主催の運動会や祭りに参加し、地域住民と交流するとともに、近隣住民から四季折々の花や野菜のお裾分けを頂いている。 事業所主催の納涼会に近隣住民約100名の参加を得、ボランティアや職員の家族による歌や踊りが披露されている。 地元の中学校の依頼を受け、授業の一環として職業体験を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの資格を活かし地域の人たちに認知症の勉強会をした時は講師として参加したり、 運営推進委員会を通して地域の方に入居者の状態を把握してもらい、理解をしていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回行なわれてる運営推進委員会では役員の方に入居者様の状態や状況を報告し入居者様の事を理解していただき、今後の取り組みについて助言を頂いたり話しあっている。また、昇降機導入にあたり一緒に使用する方法など説明を受けて頂いた。	運営推進会議は市職員や市社会福祉協議会職員、町内会長、民生委員、老人会会長が参加し、昨年度は5回開催しているが、家族等の参加が得られておらず、前回の目標達成計画に掲げていた2ヶ月に1回の開催も実現するまでには至っていない。 会議では事業所の活動報告や利用者の状況報告をしているほか、ボランティア団体や地域との連携、防災訓練への協力依頼などを議題として話し合い、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議の開催を再度目標計画に掲げるとともに、家族等の参加を含めて実現することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長は認知症サポーターの資格を活かし地域の人たちに認知症の勉強会を催した時は講師として参加したり、運営推進委員会を通して入居者の現状や状態を報告し、市の関係者に理解をしていただいている。	市担当者が運営推進会議に出席しているほか、事業所からは市担当者に電話などで空き状況を報告したり、災害対策などの情報交換を行っている。 施設長が認知症サポーター養成講座の講師を務めるにあたり、市担当者や地域包括支援センター職員と連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1階のホールから玄関近くの出入り口が見えずらく、以前は施錠する時もあったが今は施錠せず、いつもオープンにしている。	身体拘束をしないケアに関する研修を実施し、職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 転落防止のため、家族等の承諾を得て2階の階段に柵を設置しているが、玄関や非常階段への出口は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	役所からの通達や情報をもとに、毎月行っているミーティングでスタッフに説明や研修を行い、現場で虐待行為を行っていないかの確認を行い話し合うようにしている。また、社内研修に取り入れてさらに防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会はあるものの、それをなかなか現場のスタッフ全員に理解浸透させるのは時間がかかりますが今後も学ぶ機会を設け理解を促したい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約に関しては社長、施設長の了解のもとに施設長（ケアマネ）が契約や入居に関しての説明を行い、納得されたうえで入所されている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には出来るだけ面会に来て頂き、顔を見せて話しをして頂くことで入居者との絆を大事にしている。面会に来られた際には、現在の状態を報告し本人にとって今より良いサービスを行えるように心掛けている。	家族等の来訪時に担当職員が利用者の状況を報告するとともに、家族等の話を聴いて意見や要望を汲みとるよう努めている。利用者の要望を汲みとり、飲酒を希望する利用者には、主治医と相談してノンアルコールビールを楽しんでもらえるよう支援している。玄関に意見箱を設置しているが、不満や苦情は言い難い部分も多く、全てを把握しきれていない可能性がある。家族会を結成したり家族アンケートを実施するなど、利用者や家族等の意見を積極的に汲みとる取り組みをするまでには至っていない。	利用者や家族等の意見や要望を汲みとるため、家族会の設立を期待する。毎月の請求書送付時に無記名のアンケートを返信用封筒と一緒に送付し、家族等の要望を汲みとることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々、職員からの意見や提案などを聞き要望などがあれば、管理者会議で話し合い月1回のミーティングや毎朝の朝礼などで申し送りをして業務に反映している。	管理者は日頃から職員に話しかけたり、休憩時間を利用して職員の話聞くよう努め、職員が意見や提案を出せるような関係づくりに努めている。職員から出た提案や要望は、月1回開催する施設長と管理者2名による管理者会議で検討するとともに、代表者に報告して話し合っている。就学児童がいる職員の勤務の柔軟な変更や職員が利用者と一緒に食事ができるように配膳トレーを増やすなど、職員から出た意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフに居室担当の係りを設け支援内容の把握を行い責任感を持って働いてもらっている。また社長（施設長）が毎年各人と面談を行い要望や意見を聞く機会を設けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員の入社時の研修を施設長が行い現場への対応を行っている。また管理者やスタッフが受けてきた研修を、全スタッフに理解してもらうために休憩時間などを使って実務研修をしたり、時間外を利用して勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会やケアマネージャー連絡協議会の催す研修会に参加を呼び掛けたり、参加して勉強会の参考にさせてもらっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に代表者（施設長）が家族やご本人と面会をし、担当ケアマネから情報をもって参考にしながら、家族の気持ちや要望、御本人の気持ちや状態を導きだしスタッフに申し送って対応の参考にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同じく施設長（ケアマネージャー）が家族と連絡・連携を取り合い、本人の今の状況、家族の要望に耳を傾けてスタッフに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所された入居者一人一人にあった支援・サービスをケアマネがケアプランに反映しスタッフがそれぞれに基づいて実践するようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限りスタッフが入居者の生活を支援し、一諸に話しをしたり、食事をしたりしながら入居者の気持ち・思いを受け止め共に生活することでスタッフと入居者の関係を深めるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限りスタッフが入居者の生活を支援し、一諸に話しをしたり、食事をしたりしながら入居者の気持ち・思いを受け止め共に生活することでスタッフと入居者の関係を深めるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた知人や親戚のかたに再度来所してもらえようとお話をして促している。また病院やお店、地域の催し物などで知り合いの方に遭遇し会話をすることで、再度親交が深められ楽しみとなるよう関わりをもてるようにしている。	職員は面会で来訪した利用者の友人や知人に再来訪を働きかけている。 要望があれば馴染みの美容室の継続利用を支援したり、利用者の自宅近くの公園に出かけられるよう支援しているほか、馴染みのボランティアによるバイオリン、フルートのコンサートに出かけられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけホールで過ごす時間を長く取れるようにスタッフが関わり、レクリエーションの実施や毎日の日課の歌や口腔体操を必ず実施しながら、入居者同士が関わって楽しめるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にご家族の要望で時々施設に訪れたり、近所のお年寄りの状態や家庭環境を見て入所に関する相談の電話や訪問を受けたりして、色々な面で関わりができていると思う。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントシートを入所前に作成しその方の生活歴や此処までに至った経過や思い等を書き込み全スタッフが把握できるように作成した書類に目を通してもらっている。また入所後は御本人と話しをしながら思いを少しでも汲み取れるよに関わっている。	職員は日々の会話から、利用者一人ひとりの思いや暮らしに対する意向を把握している。 把握が困難な利用者の場合は表情やしぐさから思いを汲み取るほか、入居時に聞き取った生活歴などの記録から検討している。 日々の支援の中で把握した意向や思いを申し送りノートに記録しているが、他の記録の中に埋もれており、全職員で共有するまでには至っていない。	日々の暮らしの中で把握した思いや意向は、サインペンなどで強調して記録するとともに、全職員で共有することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にアセスメントシートを作成しますがその時入居者の生活歴や思いを書き込みますので、各スタッフが各入居者の生活歴を把握するように心掛けてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今その人（入居者）のまだ出来る可能性のある残存能力を生かす為に、その人（入居者）の持っている（残っている）能力・特性などをスタッフ全員が把握するように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー（施設長）が中心となり、管理者や看護師、御家族や介護スタッフからの意見を取り入れたり御本人の要望があればケアプランに反映させるようにしている。	介護計画は計画作成担当者や看護職員、利用者毎の担当職員でカンファレンスを行い、利用者や家族等の希望並びに医師の意見を取り入れて作成している。 3ヶ月毎又は6ヶ月毎にモニタリングを行うとともに、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果は毎日のケース記録にその時対応したスタッフが随時書き込むようにしている。その情報は職員全員で共有しあい、1日の申し送りとして伝えるようにしている。支援記録は各居室担当のスタッフが書きこむようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアマネージャーと家族との間で、現在の御本人の状態、今後どうしていきたいかなど綿密に話し合い入居者が安心して過ごすことができるよう、スタッフの理解を得ながら新たなサービスにも取り組んでいる。またサービス担当者会議を催しスタッフの意見・家族の要望を反映させている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時々ボランティアの方には季節の行事の際にレクリエーションを実施していただいている。病院受診は太田市内の病院をかかりつけにして対応し、近所に余りお店がないので買い物に出る機会が少ないので機会があれば車に乗車してもらい出掛ける機会を設けるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される際には、本人や家族からの要望などを聞いている。特に希望がない場合は近くの病院を勧め、その病院との連携を図っている。	利用開始時にかかりつけ医を選択してもらい、今までのかかりつけ医を希望した場合は家族等に通院介助を依頼することにしており、その場合には介護サマリーを作成して医師に報告している。 協力医療機関への受診は職員が付き添うとともに、受診結果に変化があった場合は、家族等に電話等で報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りで各入居者の状態を把握していますが、夜勤者や日勤者の気づいた時点ですぐに見てもらえるように相談して様子を見ています。また継続的な処置も看護師中心で対応しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はサマリーを作成し病院に届け看護師やケアマネージャーが随時、病院の様子を伺い病院関係者や家族と連絡を密にし、情報を交換したり相談しながら現状を把握しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所後の身体の状態を御家族に報告し把握して頂きながら、病院受診が多くなってきた時に御家族や病院の先生と話し合いを行いながら、支援に取り組んでいる。（できるだけ御本人の訴えにも耳を傾け、家族の意向を尊重するようにしています。）	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、利用者や家族等の同意を得ているが、重度化や看取り介護の体制を構築したり、マニュアルを整備するまでには至っていない。	重度化や終末期に向けた事業所の対応方針を代表者や職員で早期に話し合うとともに、事業所としてできることとできないことを明確にし、新たな「重度化や終末期に向けた事業所の対応方針」と「同意書」を作成し、利用者や家族等に説明することを期待する。 重度化や終末期の対応マニュアルを作成するとともに、職員研修を実施することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は定期的には実施しないとスタッフに浸透（理解）しないので、年間の訓練を増やし対応します。またAEDの実施（訓練）も毎年おこなうことで実践力を養っていききたいと思います。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	まだ不十分なので今後も話し合いを続けスタッフ全員がわかるようなマニュアルを作成したい。夜間想定避難訓練を実施。今後、地域の防災組織に加盟したり施設の避難訓練時、近隣への呼びかけを準備しているが、まだ実施できていない。	年1回自衛消防訓練を実施するとともに、その中で夜間を想定した避難訓練を行い、訓練後は検討記録を作成しているが、避難訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 運営推進会議の委員である町内会会長の働きかけにより、月1回地元の消防団が事業所の設備点検に来訪している。 災害に備えて食料や飲料水などを備蓄しているが、備蓄品リストを作成するまでには至っていない。	運営推進会議で地域との協力体制について話し合い、避難訓練に近隣住民や地元消防団の参加を働きかけることを期待する。 賞味期限を記入した備蓄品一覧表を作成して管理することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには十分に気をつけて言葉掛けしている。名前を呼ぶさいにも場所をわきまえて対応したい、入浴時のスライド使用やトイレでの排泄時はアコーディオンカーテンで仕切ってプライバシーを尊重している。	管理者や職員は利用者一人ひとりの人格を尊重しながらプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。面会ノートはプライバシーを配慮して利用者別に整理している。契約書などの個人情報が記載された書類は、事務室の書架に保管している。	契約書などの個人情報が記載された書類は、鍵のかかる書架に保管することを期待する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ御本人の気持ちや訴えを聞くようにし、それをスタッフが共有することで日常のケアに繋がっている。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはこちらの1日の流れにそって行動していただいているが、御本人の要望や希望を聞きながら言葉を掛けたり、その時の状況を察知しながら其の状況にあわせてベストな対応を心掛けている。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の時など身支度を整えてその時期に合った洋服を着てもらおうように心掛け スカーフや帽子などその人らしいおしゃれができ生き生きとその時間を過ごせるよう支援している。				

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフが入居者と楽しみながら食事をいただいている。バイキング形式での食事や、お楽しみメニューも取り入れている。また、野菜の皮ムキや食事後の食器拭きを手伝っていただくこともある。	職員は利用者と一緒に同じ食事を摂り、利用者が食事を楽めるよう支援している。利用者はできる範囲で食事前後のテーブル拭きや食器洗いなどの役割を担っている。朝食と昼食は職員が近隣で購入した食材や自家菜園で収穫した野菜を使用して調理しているが、平日の夕食は宅配業者を利用して献立に変化を付けている。雛祭りや節句などの季節行事にはバイキングスタイルの食事を提供したり、2ヶ月に1回刺身などのお楽しみ献立を取り入れ、食事が楽めるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お年寄りに水分補給は重要と言う観点からケース記録に水分量をチェックしているので、それを見ながら日々調節している。（食事も毎食ごとに記入しどの位食べたかを把握するようにしている。）		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後各入居者に言葉掛けをし洗面所へ誘導し口腔ケアを行っている。（口腔内の状態に応じ歯ブラシとスポンジを使い分けている。）		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間はオムツ対応の入居者様もいますが、日中はリハビリパンツに替えてトイレに誘導し排泄され状態に合わせての自立支援を心掛けている。	職員は排泄チェック表を作成し、利用者の排泄パターンを把握している。夜間おむつの使用を希望する利用者もいるが、職員はなるべくポータブルトイレやトイレで排泄ができるよう支援している。夜間はおむつを使用している利用者でも、日中はリハビリパンツを使用してもらい、トイレで排泄ができるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を見ながら毎日排便の確認を行い便秘気味の入居者にはマッサージを行ったり、食べ物を工夫したり、また薬を調節しながら便秘にならないよう対策を練っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来るだけ入りたい希望があるときには入浴出来るように支援に努めている。拒否をされる利用者様には言葉かけの工夫やタイミングをみはからい入浴を楽しめるように心掛けをしている。	週2回から3回、利用者が希望するタイミングに合わせて入浴ができるよう努めているが、職員の都合で支援ができない場合もある。 入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、時間帯を変えて再度声かけをし、入浴ができるよう支援している。 入浴剤を使用して気持ちを和らげるなど、入浴を楽しめるよう工夫をしている。	利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように工夫することを期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人にとって一番いい1日のリズムが出来る様スタッフ全員で支援していく。入居者によって昼寝をしない方もいますのでその時の状態にあわせたケアを判断して行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐために服薬させる前に必ず名前を確認すること、また服薬させるスタッフをあらかじめ決めておくように取り組んでいる、が別なスタッフに関わる時は必ず声掛けをするようにしている。また、本人の状態に薬に関することであれば、医療機関に情報を公開し相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人が好きで、趣味についての話しをしながら日々の生活の中に取り込んで生かしている。それによって充実した毎日を送れるよう支援している。（ドライブ好きの入居者様は買い物名目で車の助手席に乗せて外出すると喜ばれる。）		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設全体で四季を楽しめるように出掛けている。広い庭を利用しての屋外食事会を設け、豚汁、おにぎり等を頂き喜ばれた。一部の利用者は自宅へ外出し食事などを楽しまれる方もいる。	天候を見ながら近隣へ散歩に出かけたり、事業所の広い庭で屋外食事会を楽しめるよう支援をしている。 行事計画を立て、初詣や季節毎の花見などの外出支援をしている。 家族等と一緒に食事に出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状ではお金に関して特に訴えはなく所持している利用者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階の入居者様は面会に来られる家族が多く電話をかけたり手紙を書くことはしてない。面会時に会話を楽しんでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族・スタッフ・近所の方から頂いた花々や季節に沿った飾りつけをしている。ホールには入居様が染めた塗り絵を貼るコーナーを設け作品を飾ることに喜びを見出している。また季節ごとに雛だんやこいのぼりを飾ったりクリスマスツリーを飾りつけて四季を楽しんでいる。	居間兼食堂は、過ごし易い温度や湿度に調節され、季節を感じさせる鯉のぼりが飾られている。 利用者が制作した作品のほか、家族等や近隣住民、職員から提供された季節の花をさり気なく飾っている。 居間兼食堂にはソファが配置され、利用者が新聞を読んだり、会話を楽しみながら過ごせる場となっている。 廊下やトイレ、浴室は清潔に保たれ、安全に配慮して手すりが設置されている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置いたり写真を飾っている。また、気の合う利用者同士、居室内で楽しくお話したり、一緒に寝たり思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族にお願いして使い慣れた衣装ケース・タンス・カセットテープ・お人形などを持ってきて頂いて配慮している。	居室にはエアコンやベッド、時計、衣装ケース、カーテンが備え付けられているほか、テレビやテーブル、椅子、タンス、衣装ケース、布団、家族の写真、人形など、利用者の馴染みのものが持ち込まれており、居心地よく暮らせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物が広々とした設計になっているので、長い廊下を生かして歩行訓練を行ったり、ベットや椅子等はその入居者に合った安全でかつ自立できるようなものを随時選んでいる。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム花あかりの家

作成日 平成25年7月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	2ヶ月に1回の運営推進会議の開催を再度目標計画に掲げるとともに、家族等の参加を含めて実現することが望まれる。	2ヶ月に1度の運営推進会議を定期的に行い、毎回家族の代表者に参加して貰う。	今年に入ってから2ヶ月に1回の運営推進会議を毎回開催し、家族の代表者も含め役員の方々に報告や提案、助言を頂いています。	現在実行しています。
2	6	利用者や家族等の意見や要望を汲みとるため、家族会の設立を期待する。毎月の請求書送付時に無記名のアンケートを返信用封筒と一緒に送付し、家族等の要望を汲みとることを期待する。	ご家族の思い（意見や要望）を汲みとる為に、年に1回無記名のアンケートを実施したり、家族会の立ち上げを実施する。	毎月の請求書送付時に無記名のアンケートを返信用封筒と一緒に送付（送付の月を決めて）し家族の意向（思い）を把握したり、家族の代表者と話をし家族会を立ち上げる。	8月～12月迄に実施。
3	9	日々の暮らしの中で把握した思いや意向は、サインペンなどで強調して記録するとともに、全職員で共有することが望まれる。	日々の生活の中で入居者様の感じていることや思いを全スタッフが共有する。	1階と2階に「みんなのつぶやき」のコーナーを設け各入居者様の名前を貼りだし、入居者様に関わりながら喋っていた言葉や呟きを付箋に書き貼って入居者様の思いを皆で共有しています。	5月から実施しています。
4	12	重度化や終末期に向けた事業所の対応方針を早急に話し合い、新たな対応方針や同意書を作成し利用者の家族に説明することや重度化や終末期の対応マニュアルを作成し、職員研修を実施することが望まれる。	重度化や入居者の終末期に向けた事業所の対応方針や同意書を新に作成していくこと。また重度化や終末期の対応マニュアルを早急に作成し職員研修も実施する。	重度化や終末期に向けての色々な研修に参加しながら、この事業所の方針に合った対応を現在模索中です。出来るだけ早い時期に他の事業所の対応を参考にしながらマニュアルを作成し（その間看護師やスタッフと話し合いをもつ）職員にも終末期対応の研修を勧めていきます。	8月～来年3月迄に実施。
5	13	地域との協力体制について話し合い避難訓練に地元消防団の参加を働きかけることを期待する。また賞味期限を記入した備蓄品一覧表を作成し管理することが望まれる。	災害対策として地域との協力体制のもと、避難訓練時に地元消防団の参加を呼びかけていきます。また災害時に備えての備蓄品の賞味期限一覧表を作成します。	運営推進委員会で話し合った時に地元の消防団の方が月1回施設巡視をしてくれる事になり協力体制は少し前進しています。また買い置きの水も賞味期限間近な物は飲んで処分しています。	8月～11月迄に実施。

6	14	契約書などの個人情報が記載された書類は、鍵のかかる書架に保管することを期待する。	個人情報が記載された書類は事務所内保管で人目につかない様に管理していく。	契約書等は保管庫で管理していますがケース記録等の個人情報の各自記載書は事務所保管で各入居者様の名前が見えない様にカーテンを付けて目隠しをして管理しています。	5月から実施しています。
7	17	利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように工夫することを期待する。	入居者様一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように工夫をしています。	毎日の入浴チェック表を参考に各入居者様の希望を聞いたり、入浴のタイミングに合わせて言葉掛けし季節を感じられるように菖蒲湯やゆず湯にしたり、色々な入浴剤を使用し入浴を楽しんで貰っています。	5月から実施しています。

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。